

第3学年 社会科学学習指導案

1 単元名 はたらく人とわたしたちの暮らし～岐阜えだまめを作る農家の仕事～

2 単元指導計画

次	時	主な学習内容
1	1 (本時)	『岐阜えだまめ』について知り、単元の学習課題を設定する。【つかむ段階】
2	2～10	『岐阜えだまめ』を作る農家の人たちが、おいしい枝豆をたくさん作るために、どのような工夫や努力をしているかを調べ、その意味について考える。【調べる段階】【考える段階】 ① 『岐阜えだまめ』を作る3つの栽培方法 ② 『岐阜えだまめ』の収穫から出荷まで ③ 防虫ネットを使った栽培の工夫
3	11、12	単元の学習で学んだことを生かし、『岐阜えだまめ』のパッケージに貼る、「せんでんシール」を考える。【深める段階】

3 本時について (1 / 11)

(1) ねらい

岐阜市の特産物である『岐阜えだまめ』について、各種資料を用いて調べ、興味・関心をもつとともに、単元の学習課題を設定し、今後の学習の見通しをもつことができる。

(2) 評価規準

- ・岐阜市の特産物である『岐阜えだまめ』について、写真などの資料を使って調べている。(知識・技能)
- ・『岐阜えだまめ』に興味をもち、単元の学習で解決したい課題を見出している。(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 学習展開

過程	学習活動	教師の指導・援助(留意点)
導入	1 「岐阜えだまめ」の実物を見て、社会的事象に問題意識をもつ。 ☆既習事項から ・岐阜市西部の島地区の畑で作られている。 ・島地区だけでなく、周辺の則武、鷺山、合渡地区にも、えだまめ畑が多くある。 ・この辺りの土は、長良川の水が運んできた栄養のある、水はけのよい土である。 ☆生活経験から ・給食で出る枝豆も、岐阜市で作られた物だ。 ・お店で売っているのを見たことがあるよ。	・既習事項を想起できるよう、地図などの資料を見せる。 【ICT活用の工夫】 ・教師のタブレット端末で既習の資料や生活経験に基づく写真を大型提示装置で提示する。
	2 学習問題を確認する。 岐阜市島地区で作られている『岐阜えだまめ』ってどんなものなんだろう。	・枝豆づくりが盛んな地区を地図で確認をし、市における位置や分布を把握できるようにする。 ・日本地図等を使い、3年生の児童にも出荷先の位置関係を捉えられるようにする。
展開	3 個人で追究する。 【資料：①岐阜えだまめの出荷量、②岐阜えだまめの出荷先、③全国の市町村別枝豆の出荷量】	
	4 全体で話し合い、単元を貫く課題を設定する。 ・枝豆は岐阜市で作られる農作物の中で米に次いで面積が広い。 ・岐阜市だけでなく、県内の他の市や京都や大阪など西にも多く出荷されている。 ・いろんなところで岐阜えだまめのおいしさが評価されている。 ・岐阜市の枝豆の出荷量は、全国第4位である。 ⇒岐阜えだまめは、岐阜市の特産物であり、全国でも有名なおいしい枝豆なんだ。 <単元を貫く課題> 岐阜えだまめを作る農家の人たちは、おいしいえだまめをたくさん作るために、どんな仕事をしているのだろう。	【ICT活用の工夫】 ・協働学習支援ツールを用いて資料を配付し、自分のタブレット端末で資料を見ながらマーキングしたり、全体交流で発表するときに指し示したりできるようにする。
終末	5 これから調べてみたいことを話し合い、本時の学習を振り返る。 ・農家の人はどんなふうには枝豆を作っているのかな。 ・枝豆を作る時に、工夫していることはあるのかな。 ・農家の人以外に枝豆づくりに関わっている人はいるのかな。 岐阜えだまめは、岐阜市を代表する農産物だ。生産量も多く、日本のいろんなところで「おいしい枝豆」として評判である。どんなふうには枝豆を作るか調べてみたい。	【ICT活用の工夫】 ・協働学習支援ツールのノート機能を使って、個々の疑問を教師端末で集約し、学級全体で共有する。
	6 本時の学習を振り返る。	【ICT活用の工夫】 ・学習支援ソフトのアンケート機能を使って、自分の学びを振り返る。単元を通して行くことで、振り返りの蓄積をする。